

「地域活性化人材育成事業～SPARC～」が始動

「地域活性化人材育成事業～SPARC～」は、令和4年度から始まった文部科学省の新規事業です。地域社会のリソースを総結集し、個別大学の枠を超えた横断的な文理横断型教育を基盤とした教育プログラムを構築・実施し、学部等の再編も視野に入れた事業の成果を元に、地域の未来をつくる人材輩出を目指す取組です。

山口大学、山口県立大学、山口学芸大学の3大学が提案した事業が、このSPARC事業に採択され、令和4年度から「人間中心の視点からDXを実践し、ひとや地域の課題解決のために貢献できる人材(文系DX人材)」を育成するための3大学連携推進事業を開始しました。

SPARC推進室は3号館3階に開設しています。定期的にニュースレターをお届けいたしますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

SPARC推進室長 岩野雅子（副学長）

SPARC推進室次長 吉村耕一（副学長）

SPARC推進室員：末本哲雄、東 宮史(以上特任教員)、佐藤和孝、林 省一、渡部あい(以上事務職員)、

西田光一(国際文化学部)、池田史子(国際文化学部)、阿部真育(国際文化学部)、塚本淳一(法人経営部)、

田原直幸(法人経営部)、阿部絵后(法人経営部)、藤井佳代(教育研究支援部)、梅田辰徳(教育研究支援部)

SPARCとは？

SPARCとは、国の大学教育再生戦略推進費の一つで、「**S**uperminent **P**rogram for **A**ctivating **R**egional **C**ollaboration」の略称です。大学等が地域の中核として機能していくため、地域社会と大学間の連携を通じて既存の教育プログラムを再構築し、地域が真に求める人材を育成することを目的とした事業です。

2018年11月の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」では、高等教育が目指すべき人材育成として、数理・データサイエンス等を基盤的なリテラシーと捉え、文理を超えて共通に身に付けさせることが重要であると指摘しています。また、「山口県立大学将来構想」では、地域のグローバル化やデジタル社会へ対応する人材の育成を強化するため、国際文化学部の再編に取り組むとともに、全学でこれらの力を強化していくとしています。

こうした中、本学と山口大学、山口学芸大学の3大学が申請した「**ひとや地域(まち・文化・教育)のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成**」が、文部科学省のSPARC事業に採択されました。2022年10月3日には、本学に「SPARC推進室」を設置し、山口大学、山口学芸大学と大学等連携推進法人設立に向けた準備や協議を進めています。



<SPARC推進室開設式>

SPARCの大きな特色は？

その1. 大学等連携推進法人の設立 各大学の強みや特色を活かして事業を進めるため、大学等連携推進法人を設立します。

3大学では2022年12月6日に「**一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアム**」を設立し、この一般社団法人のもとで大学等連携推進法人の申請を文部科学省に対して行いました。

その2. 連携開設科目の開設 大学等連携推進法人の下で連携開設する授業科目は、それぞれの大学において自ら開設したとみなされ、単位として認定されます。主として、国立大学が資源を他大学に提供し、地域が求める人材に必要な文理横断型の教育プログラムを再構築します。

その3. DXを活用した地域課題PBL デジタルトランスフォーメーションを視野に入れた地域課題に対して、地元の企業とともに取り組む科目を実施します。地域の企業や産業界が変革するよう、社会人を対象とした研修や高校生への教育にも取り組みます。



「一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアム」とは？

やまぐち共創大学コンソーシアムは、3大学からの8名の理事と監事2名の計10名が役員となって設立されました。本学からは岡理事長と田中学長が理事に就任しており、岡理事長はコンソーシアムの副代表理事となっています。なお、代表理事には山口大学の谷澤学長が就任しています。

コンソーシアムには「**企画運営委員会**」と「**連携教育プログラム委員会**」の2委員会が設置されており、企画運営委員会では、コンソーシアムの基本的な方針や、管理運営、連携事業の企画・運営などについて協議を行っています。「**連携教育プログラム委員会**」では、連携開設科目を活用した教育プログラムや、リカレント・リスキリング教育プログラム、高大接続・高大連携、教育プログラムの質保証に係る点検・評価などについて協議を行っています。こうした教育プログラムを円滑に進めるため、現在「**SPARC連携開設科目タスクフォースチーム**」と「**SPARC-LMS構築タスクフォースチーム**」が設置され、3大学で連携開設科目の内容や時間割、授業の実施方法、LMSについての検討を行っています。

今後、これら2つのタスクフォースチームに加えて、「**高大接続推進チーム**」「**リカレント教育推進チーム**」「**教学IRチーム**」が設置される予定です。

なお、教育関係者や、一般県民の皆様にSPARC事業について知っていただくため、2023年2月初旬に東京で開催されるSPARCシンポジウムでは、山口県での取り組みを報告する予定です。

連携開設科目とは？

「STEAM人材育成系列」と「DXによる地域課題系列」からなっています。

3大学間で提供し合う科目については、具体的に「データ科学のための基礎数学」「統計学概論」「人工知能概論」「データ科学と社会Ⅱ」「知的財産入門」「人工知能概論」「DX概論」「地域学」等を検討中です。これらの科目の中には、基盤教育に関わり、大学全ての学部で取り組むものも含まれています。

連携開設科目の正式実施は2025年度を予定していますが、2023年度からは「DX概論」や「地域学」に相当する内容の試行が始まります。



SPARCにより大学にもたらされる変化は？



国際文化学部の再編では、これまでの語学や留学、地域文化やデザイン等の教育分野を見直します。

他学部や大学全体では教育のDX化が進みます。従来使われていたLMS(Moodle)は、3大学揃って新たなLMS(Moodle4)に移行します。名称も従来の「Webかるちゃー」と呼ばれていたものを改め、2023年4月1日より「YPU-SPARC-LMS」に変更します。

SPARC特任教員について

SPARC事業の実施に当たっては、文理横断教育、地域学(DX化)、高等教育のデジタル技術活用分野を担当する特任教員3名が決定しました。

今後、PBL担当の特任教員1名が加わる予定であり、2023年4月から、さまざまな科目に共同担当者として入ります。

また、コンピューター、教育のICT化で支援が必要な学生・教職員の相談に乗ります。

場所は3号館のC312号室です。お気軽にお立ち寄りください。

編集後記

SPARC事業を知っていただくためのニューズレター第1号をお届けします。

デジタル化、国際情勢の大きな変化、人口減少に対する大学の未来、急激に変わりつつある社会。2030年、2040年の社会を市民として生きる若い人たちに必要な知識・スキル・態度について、一緒に考えていけたらと思っています。